

1987	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
11	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	.	.	.	.	.

● 毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

# 備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。  
 そなえる…用意する、そろえる、用心する  
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備  
 そなえ……したく、用意、警戒、防衛  
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘  
 そなわる……準備ができる、身に付く  
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!

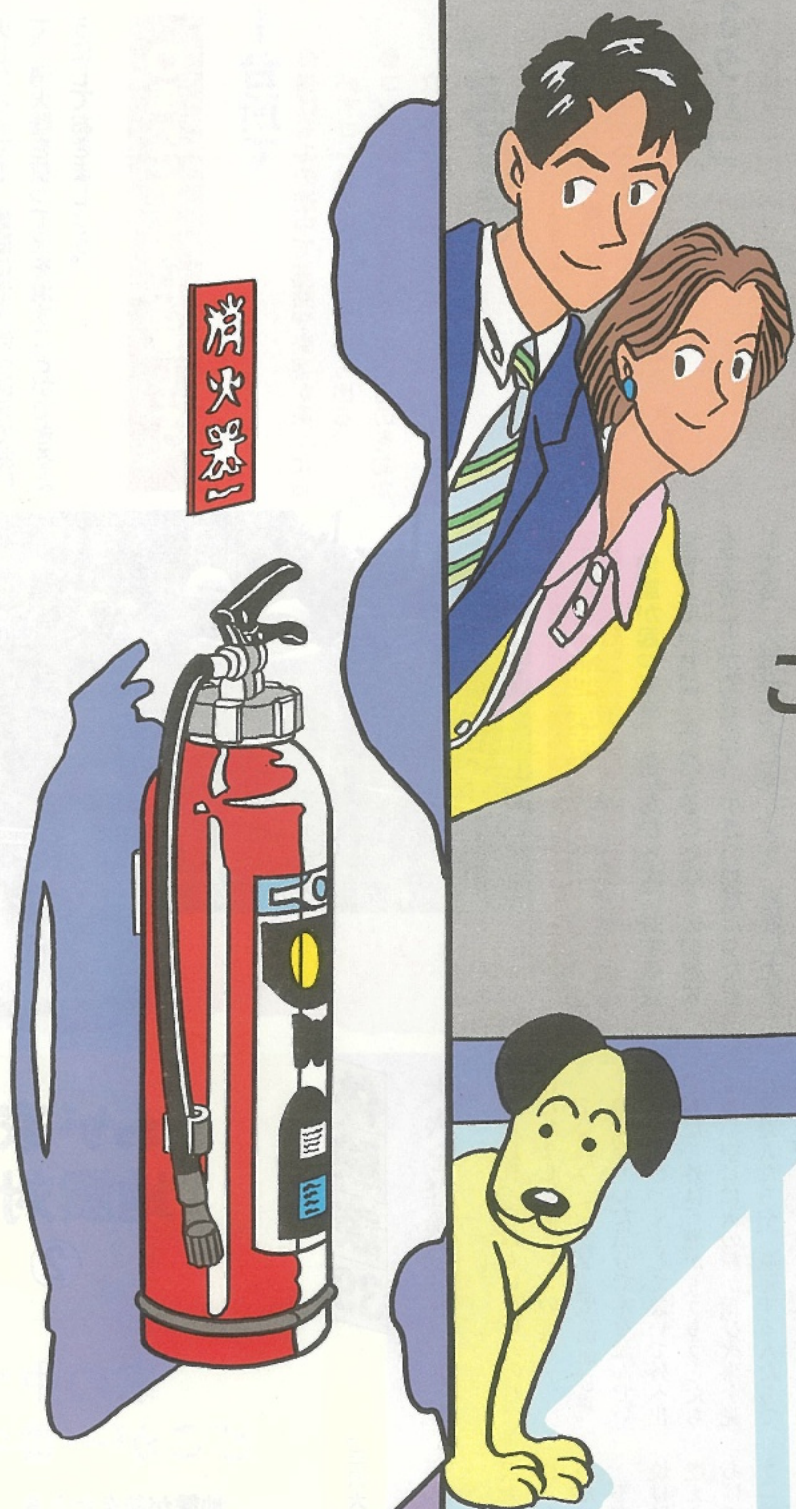


かわさき  
 防災広報紙

NO.

39

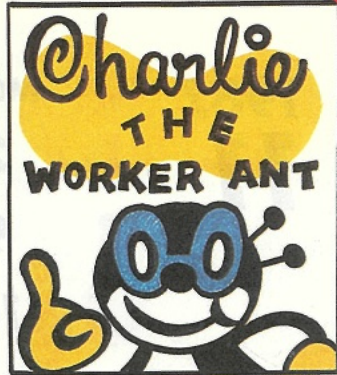
昭和62年10月31日発行  
 発行●川崎市  
 編集●土木局防災対策室  
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地  
 TEL.(044)200-2111内線2841



親しき仲にも礼儀あり。  
 これ「火とのおつき合い」にも  
 言えそうです。

「火とのおつき合い」がますます深くなる季節です。  
 家から冬を追い出してくれるストーブにも。  
 からだの芯まで暖めてくれるアツイお風呂にも。  
 寒いほどおいしくなる鍋料理にも。  
 冬の生活にさまざまな形で顔をだす火。  
 しかし、いったん慣れ慣れしくすると、大変な目にあります。  
 ストーブの消し忘れや、お風呂のから炊きから起こる火災。  
 寒さから人を守るはずの火が、  
 お互いの心のキヨリを誤ると人の命を奪うことさえあるのです。  
 冬という季節は、火との正しいつき合い方を  
 身をもって教えてくれる先生なんですね。  
 今年も「火災ゼロ」の町をめざして、みんなで気をつけましょう。  
 地震の時には特に注意しましょう。





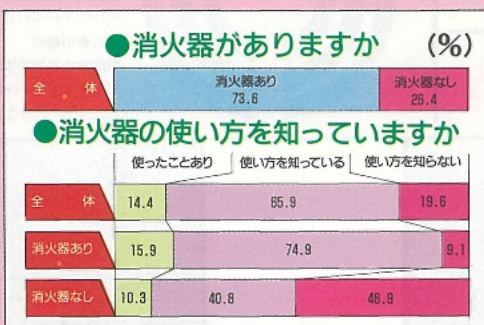
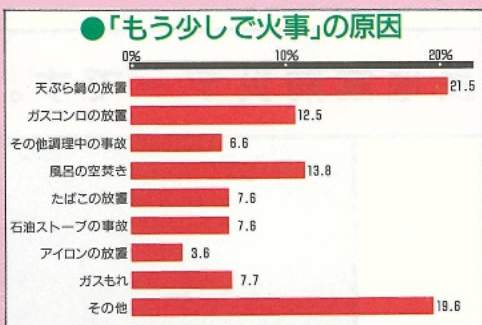
# 災に、善悪はわからない。

○危なく火事を出すとこらだった

実際に火事を出さなくとも、危なく火事になりそうだった、そんな経験をしたことはありませんか。

川崎市で10、186人(うち主婦が94・4%)に対してアンケート調査を行ったところ、6%の人がもう少しで火事を出すとこらだったと答えています。

この「もう少しで火事」の原因は次のようなものです。



調査の対象が主婦の方たちだったせい、台所での天ぷら鍋やガスコンロによるものが多くなっています。不意の来客で玄関先で立ち話をしている、あるいは、電話での話が長くなってしまい、ついうっかり火を使っていることを忘れてしまった。気がついたら台所の方で変なにおいがして、急いで台所にもどると、煙がた

## 市民地震防災デー



川崎市では、昭和56年4月に「毎月15日は市民地震防災デー」と定め、地震に備えて次のような呼びかけをしています。

- 火の元を確かめる
- 家具が倒れないように点検する
- 非常持出品を確かめる
- 家族みんなで話しあう

市の広報車やヘリコプターによる広報、また防災無線(同報無線)や市バスの車内放送などで耳にした方もいらっしゃることでしょう。忙しい毎日ですが、毎月1度15日に家の中の安全点検をしてみたいいかがでしょうか。

- 1 台所で
  - 揚げものの途中で電話や来客があつたら必ずコンロの火を消してから出る。
  - コンロの周囲には燃えやすいものをおかないようにする。
- 2 風呂場で
  - 火をつけるときは、必ず水がはいっているかどうか確かめる。
  - 風呂の栓が完全に閉つていて、水もれがないか確かめる。
- 3 タバコ
  - 寝タバコ、くわえタバコをしない。
  - 吸いながらを捨てるときは、水を十分かけて消すなど、火が消えていることを確かめる。
- 4 石油ストーブ
  - 給油するとき、移動するとき、その場を離れるときは、必ず火を消す。
  - ストーブを洗濯物などの乾燥架代りに使わない。

地震が起つても、ふだんから火に対する注意をすれば、あわてることなく火の始末をすることが出来ます。小さい地震だったとしても、火は必ず消しましょう。直後に大きな揺れになつてしまふかもしれない。大きく揺れてからでは、火は消せなくなる可能性があるからです。

また、町内会・自治会(自主防災組織)で行う防災訓練に参加して、消火器の使い方や天ぷら鍋の消火方法を身につけておきましょう。地震から身を守ることは、毎日の生活で火災から身を守ることによつてはじまります。

地震が起つても、ふだんから火に対する注意をすれば、あわてることなく火の始末をすることが出来ます。小さい地震だったとしても、火は必ず消しましょう。直後に大きな揺れになつてしまふかもしれない。大きく揺れてからでは、火は消せなくなる可能性があるからです。



○地震時の火の始末

地震が起つても、ふだんから火に対する注意をすれば、あわてることなく火の始末をすることが出来ます。小さい地震だったとしても、火は必ず消しましょう。直後に大きな揺れになつてしまふかもしれない。大きく揺れてからでは、火は消せなくなる可能性があるからです。

## わが家の地震対策 ②

### 家の中でどこが一番安全か

地震が起きたとき、すぐに身を寄せる安全な場所を決めておきましょう。柱の多い壁ぎわで、家具類の倒れてこないところ、電灯、棚やタンスの上の物が頭の上に落ちてこないところ。しょうぶな机やテーブルなどの下に身をかくすのも、身を守る一つの方法です。

「三沢大火誌」から (三沢市提供)

## 体験談 39

### 大火を経験して

第一中学校 2年3組(当時) 阿部 節子さん

1月11日、忘れもしないあの日。けたたましいサイレンの音。「火事だ」と言う誰かの叫び声。のんびりした気分が本を読んでいた私は、びっくりして急いで外へ出てみた。外は、煙がもうとうとうとこみ、空には火の粉が飛び火事を見に来た人たちが、避難する人たちがごったがえしていた。私が、父と一緒に荷物をまとめた時、父の職場の人が来て、荷物を運んだりして手伝ってくれた。私たちは、一生けんめいに荷物を運んでいたのだが火元に近かった私の家は、荷物も十分出さないうちに焼けてしまった。そのうち私は、父母とはぐれてしまった。両親をさがしながらしばらく火事の状態を見ていたが、今思い出してもぞつとするようなものすごい火の勢いだった。ほんのわずかの時間に760世帯が火の中に消え、約1、300人の人が家を失ってしまった。

私は、父母にめぐり会いひとまず、親類の家にお世話になることになった。持ち出した家具のうち、損失したものが、他人のものが入っていたりして、どれが誰の物かわからない状態だった。そしてテレビなどで三沢大火のニュースを見た。その時、私は、不安の一夜が明け、その次の日、焼け跡に行ってみると、まだ石炭が燃えきらないでところどころに炎をあげていた。被災者は力を落したように焼け跡に、たまたまでいた。この時は、「火」というものがどんなにおそろしいものかということを感じた。またその反面、全国を強く感じた。またその反面、全国を強く感じた。またその反面、全国を強く感じた。

しかし、私たちが全国の人々へ感謝している心のかたすみ、やはり「あの時、大火にあわなかつたら...」と思う気持ちがある。そして「火」というものが、憎らしくさえ思える時もあった。しかし「火」に腹を立てたって、どうにもなるものではない。私たちが、もう一度火の恐ろしさを自覚し、火のあつかい方に充分注意しなくてはならないと思う。

(以下略)

※三沢大火 出火日時:昭和41年1月11日14時14分頃、鎮火時刻:同日19時55分、風向:西風速22~26m/s、全焼:418戸、被災世帯:828世帯、被災人口:2152人